

Our Last Key to Development

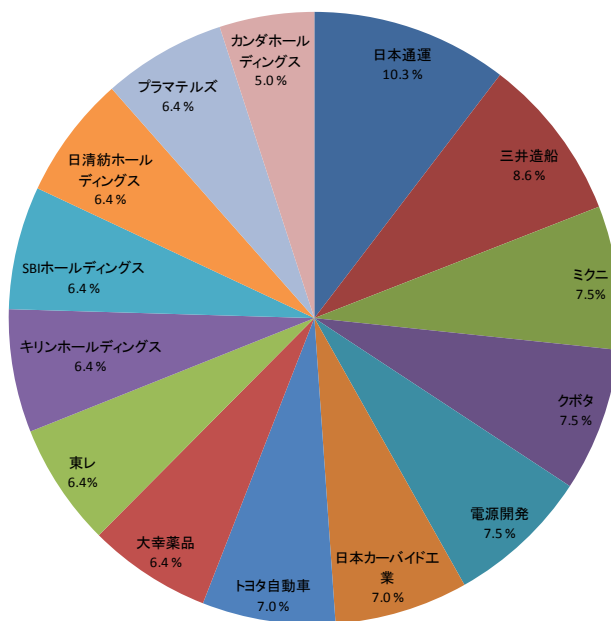
～東南アジア～

応募区分 : 中学
チーム ID : SL201112
学校 : 慶應義塾普通部
学年 : 3 年
リーダー : 大野水季
メンバー : 岡田浩
小倉稜
桂宏行
指導教諭 : 荒川昭

500 万円の銘柄一覧

コード	銘柄	市場	金額[円]	割合[%]
9062	日本通運	東証1部	513560	10.3
7003	三井造船	東証1部	429678	8.6
7247	ミクニ	東証2部	375990	7.5
6326	クボタ	東証1部	375840	7.5
9513	電源開発	東証1部	375304	7.5
4064	日本カーバイド工業	東証1部	349034	7.0
7203	トヨタ自動車	東証1部	347985	7.0
4574	大幸薬品	東証1部	322272	6.4
3402	東レ	東証1部	322251	6.4
2503	麒麟ホールディングス	東証1部	322240	6.4
8473	SBIホールディングス	東証1部	322200	6.4
3105	日清紡ホールディングス	東証1部	322140	6.4
2714	プラマテルズ	JASDAQ	322080	6.4
9059	カンダホールディングス	東証2部	247551	5.0
※現金の余りは136円				

500万円に対する投資金額の割合



要旨

世界的な金融危機の中でも発展し続けるアジア地域、中でも東南アジアに進出している企業に注目して投資を行い、1 ヶ月強で 20%以上の利益を得た。

目次

1. 投資テーマ
2. 投資銘柄の選別
3. 投資した会社の概要
4. 運用結果
5. 日経 STOCK リーグを通じて学んだこと
6. 参考文献

1. 投資テーマ

2008 年秋のリーマンショック以来、アメリカをはじめとした世界経済は低迷している。表 1 に、国、地域別の GDP 伸び率を示す。

表1 国・地域別GDP伸び率の推移				(単位: %)
	2008	2009	2010	2011
アメリカ	△ 0.3	△ 3.5	3.0	1.7
EU	0.5	△ 4.2	2.0	1.6
日本	△ 1.0	△ 5.5	4.4	△ 0.7
東アジア	7.1	5.8	9.4	7.6
(中国, 韓国, 香港, 台湾, およびASEAN)				
中国	9.6	9.2	10.4	9.2
韓国	2.3	0.3	6.3	3.6
ASEAN	4.5	1.5	7.6	4.5
インドネシア	6.0	4.6	6.2	6.5
タイ	2.6	△ 2.3	7.8	0.1
マレーシア	4.8	△ 1.6	7.2	5.1
シンガポール	1.7	△ 1.0	14.8	4.9
ベトナム	6.3	5.3	6.8	5.9
インド	6.2	6.6	10.6	7.2
オーストラリア	2.5	1.4	2.5	2.0
中南米	4.2	△ 1.6	6.2	4.5
中東欧	3.2	△ 3.6	4.5	5.3
ロシア	5.2	△ 7.8	4.3	4.3
中東・北アフリカ	4.7	2.7	4.9	3.5
サブサハラアフリカ	5.6	2.8	5.3	5.1
世界	2.8	△ 0.6	5.3	3.9

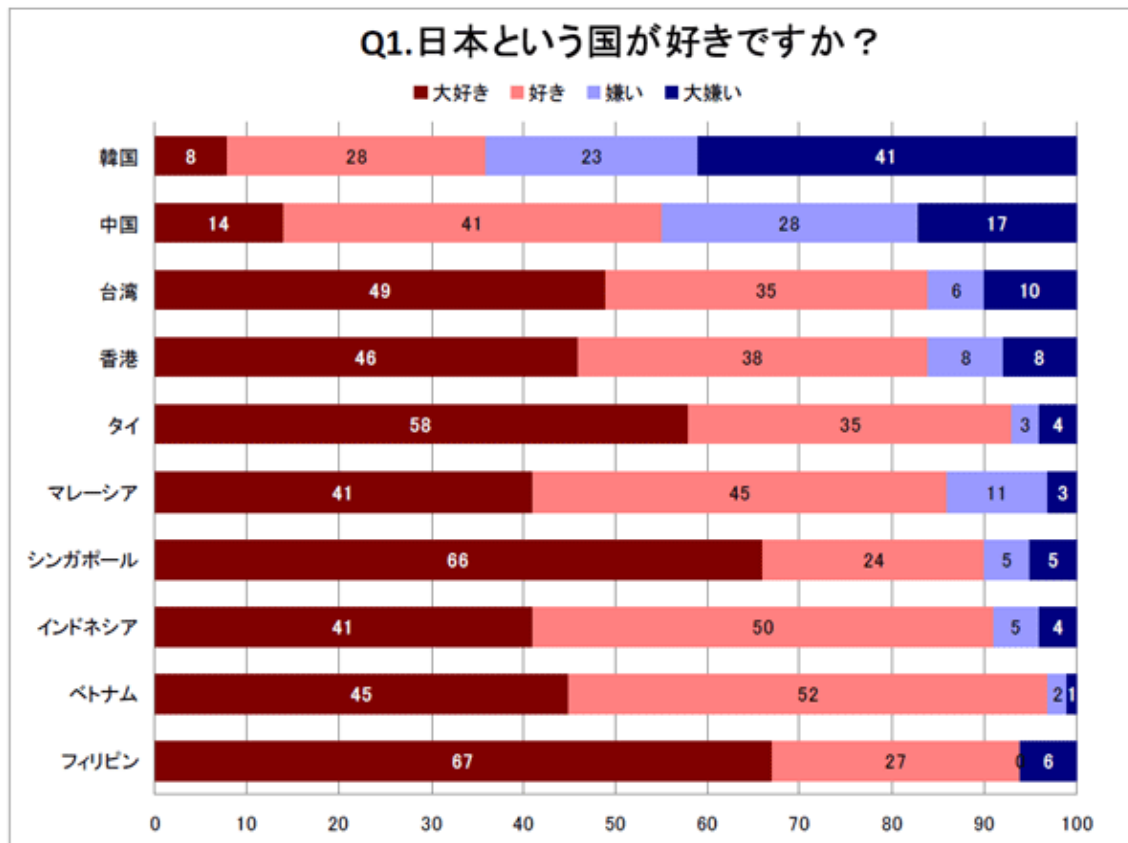
表 1 を見ると、この 4 年間ずっと成長を続けているのは東アジア、インド、オーストラリア、中東・北アフリカ、サブサハラアフリカ

で、このうち最も成長が著しいのは東アジアとインドである。よって、今回はアジア地域に照準を絞って投資を行うことにした。

そこで、アジア諸国、中でも最も成長している中国について調べていると、「チャイナリスク」「チャイナプラスワン」といった言葉が出てきた。「チャイナリスク」とは、中国国内で外国企業が経済活動を行う際のリスクのことで、例として共産党による一党独裁体制や毒入りギョーザ事件などの品質管理の問題、日本企業特有の問題として尖閣諸島にまつわる問題などが挙げられる。「チャイナプラスワン」とは、こういったリスクを考慮して、主に製造業などの企業が中国に加え別の国（ASEANが多い）に製造拠点を設けることである。

「日本企業の東南アジアシフト加速 「チャイナリスク」警戒、投資手控え」でも、日本から中国への投資高が10月は前年同月比32.4%減と、中国以外への地域へのシフトが進んでいることが確認できる。さらに、「アジア10ヶ国の親日度調査」に掲載されているグラフ（図1参照）を見ると、中国（と韓国）は他のアジア諸国に比べて日本を「大好き」あるいは「好き」と答える人の割合が極端に少ないことが分かる。これは、日本企業が進出するにあたって明らかに不利である。

図1 アジア 10 カ国の親日度調査

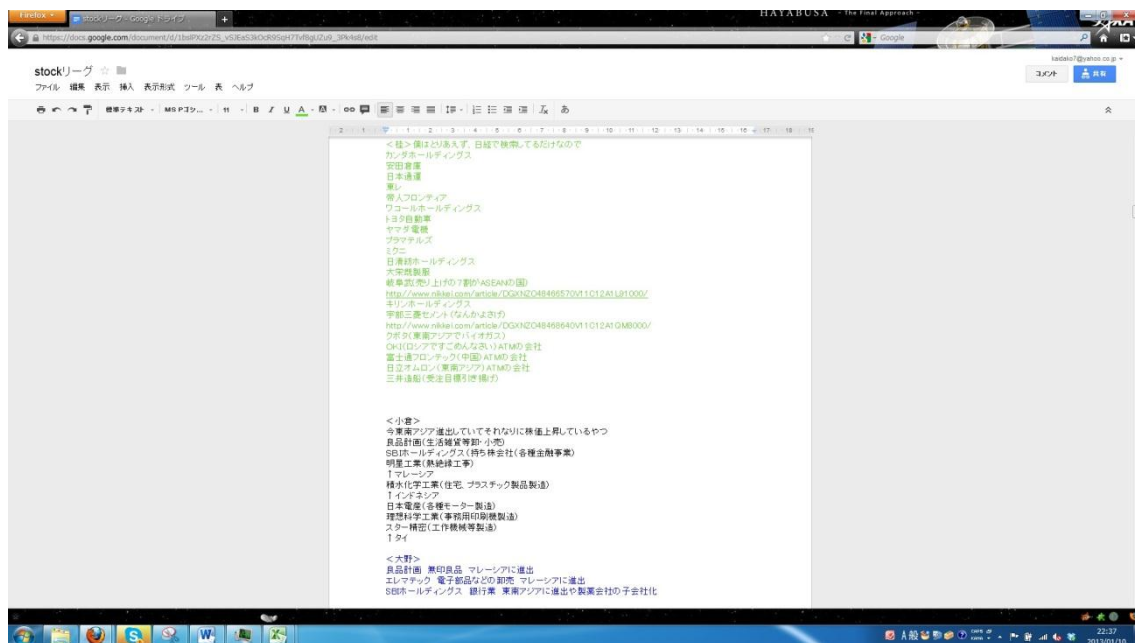


以上の理由から、今回僕達は東アジアのうち、韓国、中国を除いた国々に進出している日本企業に絞り込んで、投資を行うことにした。

2. 投資銘柄の選別

1. のようにして、投資のターゲットは「東南アジアに進出している日本企業」と決定した。

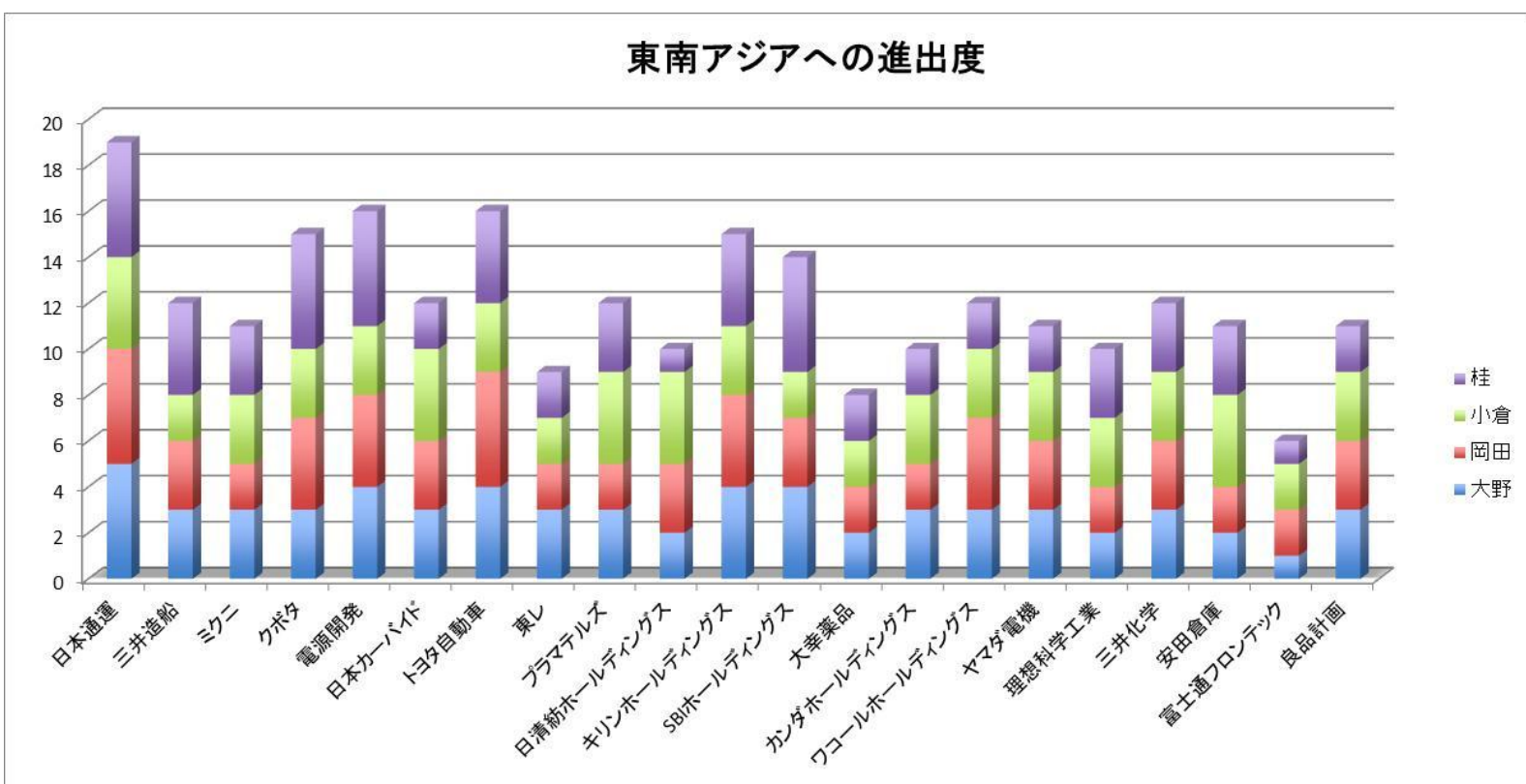
そこで、日本経済新聞の web 版の検索機能を利用して、この条件に合う企業を Google ドキュメント上でリストアップした。以下にスクリーンショットを示す。



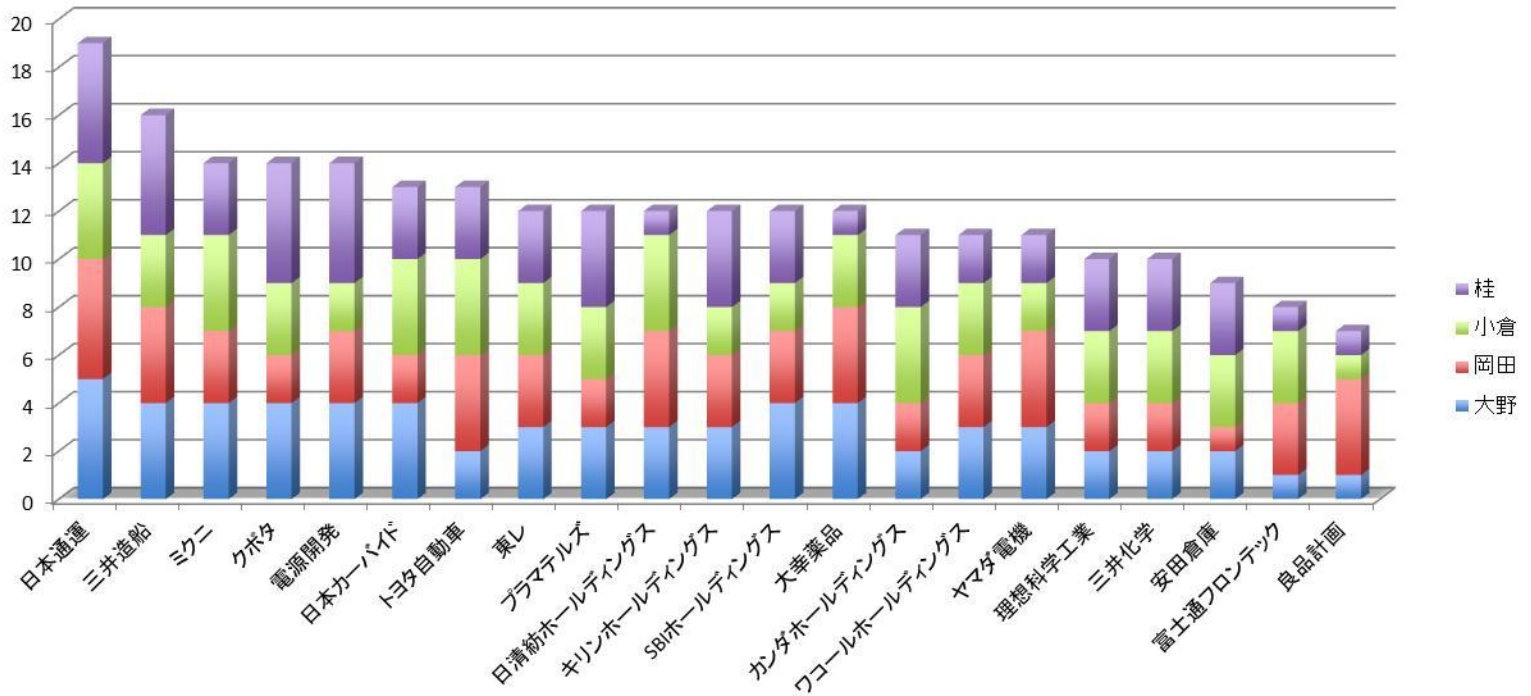
これらの企業を全員でもう一度チェックし、条件に合致しないものや株価の上昇が見込めないものをリストから外し、次の一覧を得た。

日本通運	SBIホールディングス
三井造船	大幸薬品
ミクニ	カンダホールディングス
クボタ	ワコールホールディングス
電源開発	ヤマダ電機
日本カーバイド	理想科学工業
トヨタ自動車	三井化学
東レ	安田倉庫
プラマテルズ	富士通フロンテック
日清紡ホールディングス	良品計画
キリンホールディングス	

この企業のそれぞれに、「東南アジア地域への進出(貢献)度」と「投資したいと思う度」それぞれ1～5点を付けた。21企業あったので、各個人の持ち点は21×3の63点とした。この結果を次のグラフに示す。



投資したいと思う度



「投資したいと思う度」が上位の13社に、「投資したいと思う度」

合計点数に応じて金額を配分し、投資を行った。

3. 投資した会社の概要

以下に、投資した会社の概要と、チームメンバーが各会社につけた「投資したいと思う度」（1～5 点）、コメントを示す。

日本通運		
スローガン		With Your Life
商品		国際物流、引っ越しサービス他
点数・コメント		
大野	5	株価の上がり具合良好。海外進出度が高い
岡田	5	ASEANに物流ルートを築くなど東南アジアへの参入が活発である
小倉	4	株価が上昇傾向にあって良い
桂	5	非常に多くの東アジアの子会社を有している

三井造船		
スローガン		社会に人に信頼されるものづくり企業であり続けます
商品		造船、国際物流、エネルギー開発、地図、インフラ整備他
点数・コメント		
大野	4	ベトナムでのクレーン受注など東南アジアでの動きが盛んである
岡田	3	造船で業界トップクラスの利益をあげている。
小倉	3	株価は上昇傾向で見込みがある
桂	5	バイオマス事業やベトナムでのクレーン受注など東南アジアでの動きが盛んである

ミクニ			
スローガン			私たちは地球的視野にたち、人と技術を活かし豊かな社会づくりに貢献します
商品			自動車関連部品、生活環境機器、コンシューマ製品、福祉・介護製品他
点数・コメント			
大野	4		タイ・インドネシアに拠点を置き東南アジアでの市場を作っている
岡田	3		インドネシア等の東南アジアに自動車関係の拠点を置くことは重要だと思われる
小倉	4		アジアとの関連性が濃く、株価が上昇傾向である
桂	3		東南アジアの拠点は2カ所だが海外進出の東南アジアへのウエイトは小さいのではないかと

クボタ			
スローガン			For Earth, For Life
商品			産業機械、建築材料、水・環境用品他
点数・コメント			
大野	4		インドネシアでのメタンガス発電事業参加は評価できる
岡田	2		タイで日系企業初のトラクタ生産工場を建設するなど東南アジアのプランテーションに深く関わっている
小倉	3		東南アジアとの関係は高めである。
桂	5		東南アジアでの関連会社は非常に多くバイオマス発電など東南アジアの開発を手がけている

電源開発			
スローガン			わたしたちは人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展貢献する
商品			電力卸(石炭火力発電や水力発電など)、大間原発の建設など
点数・コメント			
大野	4		アジア中心の発電事業に参加するなどアジア向け海外進出を図っている
岡田	3		タイでの活動は評価できる
小倉	2		東南アジアでの活動は評価できるが株価が下落傾向である
桂	5		中国よりタイ、インドネシアなどへの事業拡大を図っている

日本カーバイド		
スローガン		技術をもって社会に貢献する
商品		化学製品が主、電子材料製品や建材など
点数・コメント		
大野	4	東南アジアではステッカーを販売するなどの行動が見られる
岡田	2	タイ、ベトナムでの活動は評価できる
小倉	4	東南アジアとの関係が濃く、上昇傾向にあるため期待できる
桂	3	いくつかの東南アジアの拠点をもちさらに展開を加速させようとしている

トヨタ		
スローガン		Drive Your Dreams. 人、社会、地球の新しい未来へ。
商品		自動車、特にHV自動車で先行。
点数・コメント		
大野	2	早期から東南アジアに進出。今後は新興国中心の海外進出が見込まれる
岡田	4	生産拠点が大量に存在し大企業としての大規模な東南アジアへの進出を行っている
小倉	4	大企業であるため海外進出は非常に大規模。特に東南アジアへの進出は期待できる
桂	3	さらなる海外進出を図っているがその対象は東南アジアが主ではない。ただ、インドネシアなどの進出状況は評価できる。

東レ		
スローガン		わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します
商品		合成繊維、フィルム、情報通信など
点数・コメント		
大野	3	生産拠点はインドネシアやマレーシアなどだがチャイナリスクが高め
岡田	3	中国への進出が多く東南アジアにたいしてはあまり進出していない
小倉	3	東南アジアとの関連性は若干低い。しかし会社が上昇傾向である
桂	3	東南アジアへのこれからの進出には期待できる

プラマテルズ		
スローガン		Made by Japan”の高い品質を、アジアを拠点にあらためて世界に展開
商品		合成樹脂を主軸にその関連商品を生成している
点数・コメント		
大野	3	タイ、フィリピン、ベトナムに生産拠点を置いている
岡田	2	タイにこれから子会社を作ろうとしているなど将来が期待できる
小倉	3	東南アジアに積極的に進出している
桂	4	東南アジアへの進出意欲は高く4つの子会社を東南アジアに置いている

日清紡ホールディングス		
スローガン		グローバル戦略の深耕
商品		紡績、繊維、自動車ブレーキ、紙製品他
点数・コメント		
大野	3	シンガポールと中国に拠点を置いている
岡田	4	インドネシアへの進出が比較的大きい
小倉	4	アジアとの関係が比較的高い
桂	1	事業立て直しによる東南アジア進出であり危険性が伴う。

麒麟ホールディングス		
スローガン		おいしさを笑顔に
商品		ビールを主として、飲料、医療製品を産出
点数・コメント		
大野	3	昨年11月からインドネシアで販売を開始。シンガポールに事業拠点を置く
岡田	3	サンミゲルと提携するなど東南アジア進出を積極的に図っている
小倉	2	大企業であるため東南アジアだけに焦点が絞られているわけではない
桂	4	オセアニアへの進出を第一と考えているため東南アジアへの進出は必ずしも高くないが、これからの成長がおおいに見込まれると思われる

SBIホールディングス		
スローガン		
商品		国内外企業投資、ネット証券、保険、銀行、住宅、不動産など
点数・コメント		
大野	4	非常に海外進出が積極的でカンボジアに銀行設立などを最近行っている
岡田	3	東南アジアには拠点を三つ置き進出を行っている
小倉	2	東南アジアとの関連性は薄いのではないかと考えている
桂	3	インターネット事業での東南アジア進出が見込まれる

大幸薬品		
スローガン		健康社会の「ないと困る」を追求する。
商品		正露丸をはじめとする医薬品類、感染管理関連製品
点数・コメント		
大野	4	正露丸は世界中で売られる製品になっている
岡田	4	世界中で正露丸を頑張って売っている
小倉	3	東南アジアとの関連性はそこまで高くない
桂	1	中国を中心に海外進出をしており、チャイナリスクが高いのではないかと

カンダホールディングス		
スローガン		変革から創造へ
商品		貨物自動車運送、国際物流など
点数・コメント		
大野	2	グループのペガサスHDがインドネシアとタイに支店を出していて進出を行っている
岡田	2	タイの子会社など東南アジアへの進出が行われている
小倉	4	割安で、東南アジアとの関連性もある
桂	3	ペガサスグローバルエクスプレスの設立など東南アジアの物流の拠点を築いている

4. 運用結果

コード	名称	取引値		保有数	時価	購入価格		損益	
9062	日本通運	1/10	365	1,735	¥633,275	296	¥513,560	¥119,715	23.31%
7003	三井造船	1/10	138	3,942	¥543,996	109	¥429,678	¥114,318	26.61%
7247	ミクニ	1/10	187	2,265	¥423,555	166	¥375,990	¥47,565	12.65%
6326	クボタ	1/10	1,016	432	¥438,912	870	¥375,840	¥63,072	16.78%
9513	J-POWER	1/10	2,124	172	¥365,328	2,182	¥375,304	¥-9,976	-2.66%
4064	日本カーバイド工業	1/10	392	1,631	¥639,352	214	¥349,034	¥290,318	83.18%
7203	トヨタ自動車	1/10	4,205	99	¥416,295	3,515	¥347,985	¥68,310	19.63%
3402	東レ	1/10	547	659	¥360,473	489	¥322,251	¥38,222	11.86%
2714	プラマテルズ	1/10	355	976	¥346,480	330	¥322,080	¥24,400	7.58%
3105	日清紡ホールディングス	1/10	740	590	¥436,600	546	¥322,140	¥114,460	35.53%
2503	麒麟ホールディングス	1/10	1,029	320	¥329,280	1,007	¥322,240	¥7,040	2.18%
8473	SBIホールディングス	1/10	735	500	¥367,500	644	¥322,000	¥45,500	14.13%
4574	大幸薬品	1/10	873	432	¥377,136	746	¥322,272	¥54,864	17.02%
9059	カンダホールディングス	1/8	355	817	¥290,035	303	¥247,551	¥42,484	17.16%
		合計(現金含む)			¥5,968,353		¥4,947,925	¥1,020,428	20.409%

5. 日経 STOCK リーグを通じて学んだこと

今回 STOCK リーグを通じて学んだことの一つに、株はとても変動しやすいということがある。参加チームは皆、500 万円からスタートしているにも関わらず、チームによっては 300 万円まで下落、3800 万円も上昇している。

しかし、そのように大きな利益を生むことは大事だが、分散投資によってローリスクを保ち、長期保有によって少しずつ利益を生んでいくことは、高い確率で利益を得られると考えられ、個人投資家にとっても、良い方法だと STOCK リーグを通じて感じた。

無数にある銘柄の中で、僕達は『東南アジア』という海外に目を向けたテーマで銘柄を選別していった。まず、東南アジアに進出している数十社をピックアップし、それぞれの会社にチームメンバーが得点を入れて評価する方式で選別した。

その段階では 4 人の意見を取り入れた堅実な銘柄を選別したつもりだったのだが、日本の原発問題などによる電気関係会社の株価の下落傾向など、最初はあまり考慮に入れなかった問題などが後になって影響してきて、頭を悩ませる結果となった。

そして、ある一面からだけで考えるのではなく、多面的に様々な

方向から考えてポートフォリオを組むことが、分散投資にとってもっとも重要なことだと痛感した。

将来、投資をすることは、今まで以上に僕達にとって必要なものになっていくと言われている。STOCK リーグを通じて得た「別の視点を持つ」ということを教訓として、投資をしていくことが出来れば良いと考えている。

6. 参考文献

〈投資先の企業〉

日本通運（株）．〈 <http://www.nittsu.co.jp/> 〉

三井造船（株）．〈 <http://www.mes.co.jp/> 〉

ミクニ（株）．〈 <http://www.mikuni.co.jp/> 〉

クボタ（株）．〈 <http://www.kubota.co.jp/> 〉

電源開発（株）．〈 <http://www.jppower.co.jp/> 〉

日本カーバイド工業（株）．〈 <http://www.carbide.co.jp/jp/> 〉

トヨタ自動車（株）．〈 <http://www.toyota.co.jp/> 〉

東レ（株）．〈 <http://www.toray.co.jp/> 〉

プラマテルズ（株）．〈 <http://www.plamatels.co.jp/> 〉

日清紡ホールディングス（株）．〈 <http://www.nisshinbo.co.jp/> 〉

キリンホールディングス（株）．〈 <http://www.kirinholdings.co.jp/> 〉

SBI ホールディングス（株）．〈 <http://www.sbigroup.co.jp/> 〉

大幸薬品（株）．〈 <http://www.seirogan.co.jp/> 〉

カンダホールディングス（株）．〈 <http://www.kanda-web.co.jp/> 〉

<レポートをまとめるにあたって使用した文献>

Perry-Castañeda Library Map Collection.

< <http://www.lib.utexas.edu/maps/asia.html> >

ジェトロ.「ジェトロ世界貿易投資報告 2012 年版 世界と日本の貿易投資統計」.

<<http://www.jetro.go.jp/world/gtir/2012/pdf/2012-5.pdf>>

Wikipedia.「チャイナリスク -Wikipedia-」.

< <http://ja.wikipedia.org/wiki/チャイナリスク> >

SankeiBiz.「日本企業の東南アジアシフト加速 「チャイナリスク」警戒、投資手控え」. 2012 年 12 月 31 日閲覧.

<<http://www.sankeibiz.jp/macro/news/121121/mcb1211210500000-n1.htm>>

アウンコンサルティング株式会社.「アジア 10 ヶ国の親日度調査」.

<<http://www.auncon.co.jp/corporate/2012/110602.html>>